

令和5年度 Group 4の取り組み

Group 4

物理担当：加藤 由莉亜

化学担当：中山 彩夏

生物担当：岡田 拓生

【物理】

IA (Internal Assessment ; 内部評価) においては、生徒は3月から4月にかけて実験やレポートの執筆等を行った。生徒は自らテーマやリサーチクエスチョンの設定を行い、実験を通して明らかにしたいことが明確であり主体性と独創性に非常に長けたレポートも見られた。一方で、教科書の学習内容がまだ定着していない生徒の中には、テーマ設定や実験手法の確立に困難を抱える者も見られた。生徒が自ら目的意識をもってIAに取り組むためには、教科書の学習を通じた知識・技能の獲得が必要不可欠であることを確認し、生徒とも認識の共有を図りたい。

【化学】

Group 4の内部評価(IA)課題は「個人研究」である。個人研究は、自ら研究課題を設定し、実験等を通して調査研究した成果をレポートにまとめるもので、IB機構が示すルーブリックに従って評価される。1年次Pre-DP科目「科学と人間生活」から実験のレポートの書き方はこのルーブリックに沿って継続的に指導しているが、執筆にはいつも苦戦している。そこで、今年度DP化学では、他のIB校の先生のアイデアをもとに、実際のレポートを生徒自身が読み採点する授業を実施した。点数を付けるにあたってはルーブリックの理解が必須である。ルーブリックの文言を評価する立場で読むことで、より深くその意味を捉えようと議論したり、どう書いたらよくなるかに言及したりする姿が見られた。生徒に提示するレポートは必ずしも「よい例」ではないため、実際に付けられた点数や解説を示す必要があるが、よりよいレポートが書けるよう今後もこの取り組みを継続したい。

【生物】

本校のDP生物の授業は、生徒が事前にスライドを作成し、授業内で他者に説明を行うスタイルを取っている。最終試験(特に試験問題2)で重要となる説明する力の育成を図るためだ。また、授業内では生徒どうしで理解が及ばなかったことについて議論し、問いに対して自ら答えを出すことを目指している。そこでは教員は、生徒の議論を促進するための問いかけをするとともに、議論の主導を

生徒に委ねること（待つ姿勢）が重要となる。しかし、今年度は教員が議論を主導する場面が多く見られた。基礎知識の定着やデータ分析力、批判的思考力の育成といった点では成果があったものの、説明する力や問いに対して答えを出すことについては課題が見られた。今後の展望として、ファシリテーターとしての教員の働きかけを意識し、さらなる生徒主体の学びを実現していくことが求められる。